

**児童・生徒の現状・課題**

- ・学習規律や学び方が身に付いていない児童が一定数いる。
- ・自分の考えをもったり、粘り強く学習に取り組んだりする児童が少ない。また、児童の学習への取り組みが受け身の児童と主体的な児童で二極化している。

**学び続ける力を育むための重点目標**

- 子どもたちが学び方を知り、自分にできる学習を選択して少しでも「自分から」学ぶことができるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標値 (7月)	結果 (1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80%	85%	
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	75%	80%	

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標値 (7月)	結果 (1月)
①問題や課題に取り組んでも上手にいかないときにどうすればよいか児童が自ら方法を選択し行動できるよう解決の方法を示している。	69%	85%	
②授業では、学習課題や学習過程等、児童生徒が学び方を選択する場面を設定している。	65%	70%	

**具体的な手だて①**

単元の目標を児童とともに設定したり、学習計画を児童が立てたりすることで、見通しをもたせる。

**具体的な手だて②**

学習形態、学習方法、ツールなど、目的や自分の得意なことに合わせて児童が選択できる場面を学期に5回以上設定する。

**具体的な手だて③**

授業、もしくは単元の最後に振り返りの時間を必ずとり、自分の学び方や理解度を確認して調整しながら学習を進められるようにする。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・授業観察や校内研究で取り組んでいる全員授業の際に、指導案を全員に配信し、授業を互いに見合う機会をつくる。
- ・研究推進委員会を中心に、主体性を伸ばす学習の実践や資料を発信することで、授業改革に取り組みやすい環境をつくる。

**総括(7月)**

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、選択式の問題に対しての正答率に比べ、記述式の問題の正答率が大きく下回っていた。つまり、粘り強く学習することや思考力・表現力などが弱いと分かる。しかし、学習の全てを自由進度にしたり選択をさせたりしても学び続ける児童の育成には届かない。まずは教師が学習規律を整えること、学習の仕方や困ったときの解決方法を児童が学んでいくことを大切にしていく。その中で、教師には児童に選択の場を与えることで主体性や思考力を伸ばすこと、児童には学び方を知って身に付けることで、粘り強く課題に取り組めるようになることを目指す。教師の中でも授業改革について、意識や理解の差が出ているが、授業を公開したり情報を共有したりすることで、みんなで考えてチャレンジできる環境にしていく。

**総括(1月)**